

5. 別所・久那地域

(1) 別所・久那地域の概況

- 本地域は荒川を挟んだ中心市街地の南西に位置し、(主)秩父荒川線沿道を中心に集落や農地が広がり、荒川と丘陵部の森林に囲まれています。
- 将来都市構造では、田園集落ゾーン、森林・自然ゾーンに位置づけられています。
- 都市計画法をはじめとする、各種法規制の適用状況は以下のとおりです。

【別所・久那地域の位置】



根拠法	区域指定等
都市計画法	都市計画区域(用途地域指定なし)
景観法	秩父市まちづくり景観計画の田園地域
農業振興地域の整備に関する法律	農業振興地域
自然公園法に基づく埼玉県自然公園条例	県立武甲自然公園
森林法	保安林

【法規制の状況】

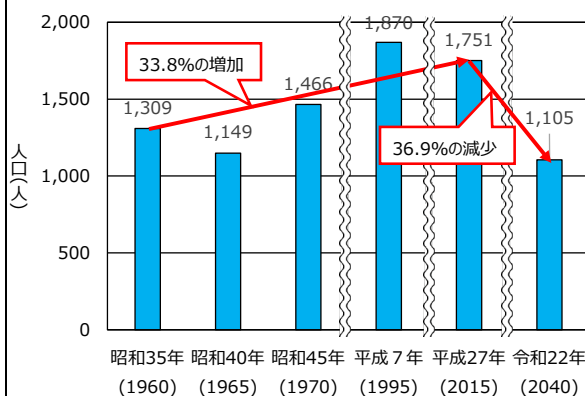


(2) 別所・久那地域の地域特性

①人口特性

- 本地域の人口は、戦後から1970(昭和45)年まで一度減少したあと増加に転じ、2010(平成17)年頃にピークに達した後再び減少に転じました。他の地域と同様に、2040(令和22)年には1,100人程度まで大きく減少すると見込まれています。
- 過去10年間を見ると地域全域で減少傾向ですが、特に久那の出張所周辺で減少率が10%を超えるなど、その傾向が顕著となっています。また、高齢化率は、出張所周辺で25~30%、上久那・巴川地区では市全体の平均を超える30~35%とやや高くなっています。
- 定住意向については、「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」とする回答は約8割に達し、定住意向は高い地域といえます。

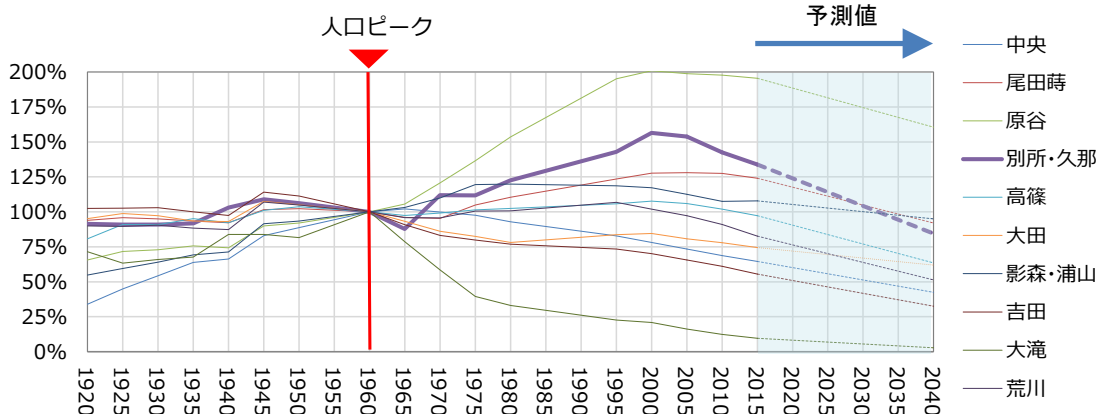
【人口動向(国勢調査)】



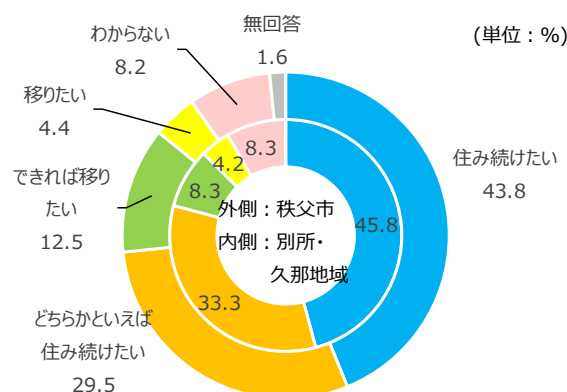
【町丁大字別高齢化率(平成27年・国勢調査)】



【1960(昭和35)年を100とした場合の人口指数の地域間比較】



【定住意向(市民アンケート調査)】



【人口増減の動向(2005(平成17)年→2015(平成27)年人口増加率)】



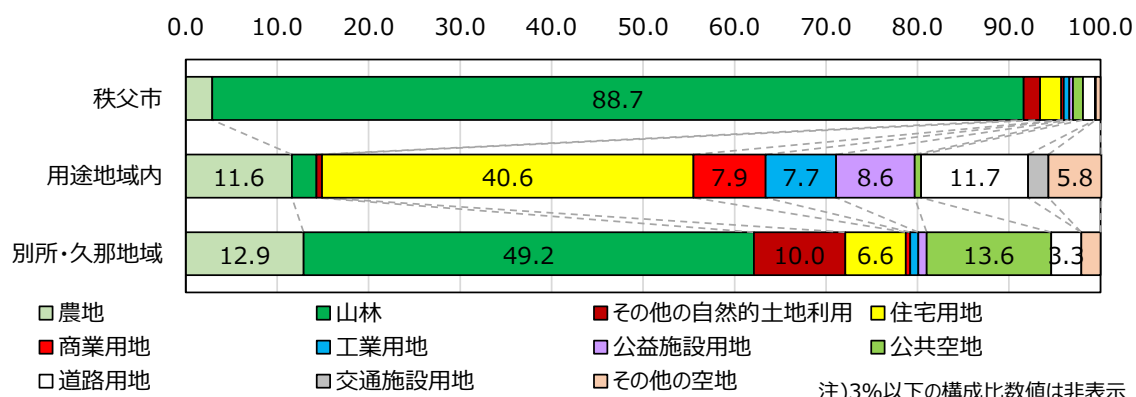
【人口増減の見通し(2015(平成27)年→2040(令和22)年人口増加率)】



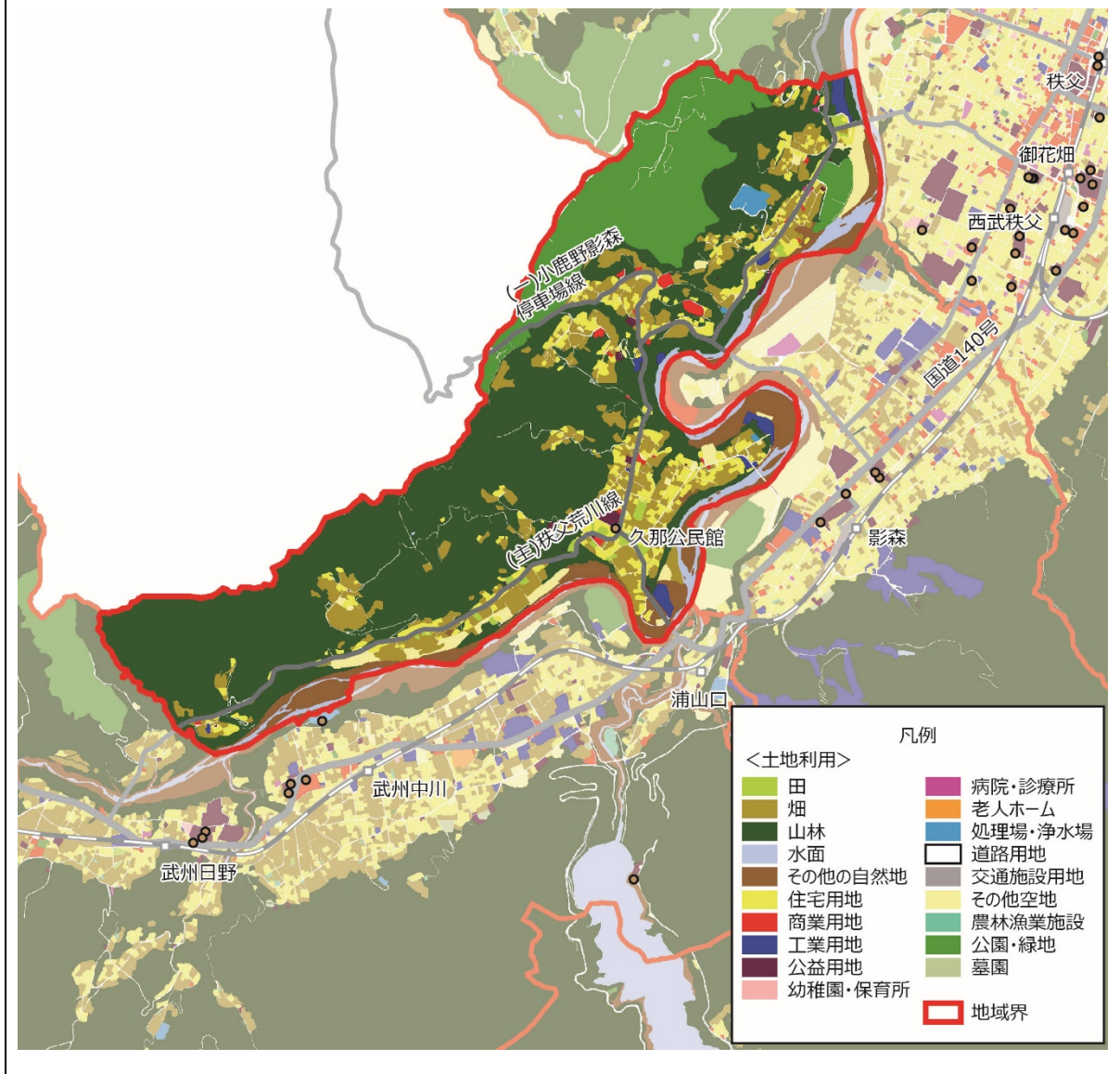
②土地利用・産業基盤・機能

- 土地利用は長尾根丘陵など約5割が森林で、農地などを含めると約7割が自然的な土地利用で占められています。
- 地域の全域が県立武甲自然公園に属し、長尾根丘陵には都市公園として秩父ミュージックパークが整備されています。
- 平地部は久那出張所周辺や(主)秩父荒川線の沿道に限られており、集落や農地として利用されています。久那出張所には公民館が併設され、久那小学校が隣接していますが、別所地区においては、荒川を隔てた花ノ木小学校区に編入されています。
- 行政・教育などの都市機能は、久那出張所を中心に集積していますが、地域内にスーパーなどはなく、荒川を越えた市街地に頼らざるを得ない状況にあります。
- 別所地区では、県道沿いに飲食店が建てられ、ちちぶキッズパークは子育ての人気スポットになっています。また、市内最大の別所浄水場は、安心安全な上水道を供給する大切な施設です。
- 別所地区には野球場や総合グラウンドが設置され、市内のスポーツ大会や練習に利用されています。
- 平地部の大部分は農業振興地域に指定されており、農地の中に住宅などが散在する土地利用構成となっています。
- 荒川に面したエリアでは、釣り、バーベキュー、水遊びなど河川敷を利用したレジャーが盛んです。

【土地利用現況（平成28年・都市計画基礎調査）】



【土地利用現況図（平成28年・都市計画基礎調査）】

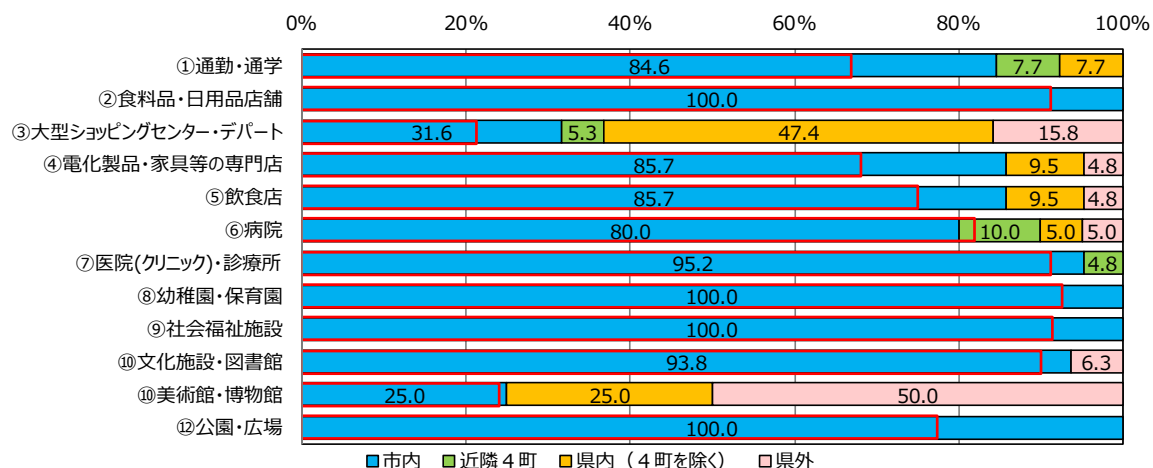


資料：平成28年度都市計画基礎調査（土地利用）

③居住環境特性（市民アンケート調査）

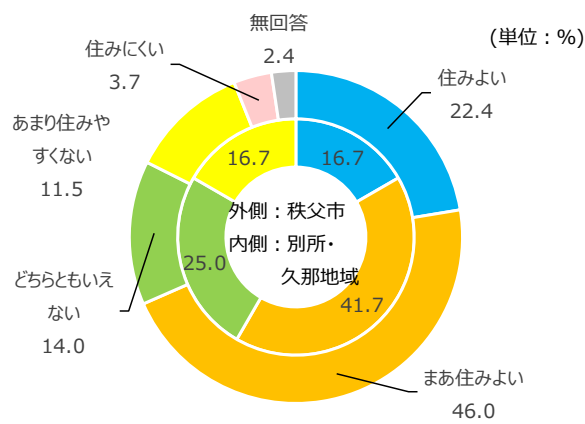
- 日常生活における目的ごとの主な行き先は、ほぼ全てで「市内」とする割合が市全体と比較して高いことから、日常生活はほぼ市内で完結していることが特徴となっています。
- 住みにくい理由として、「買い物が不便」「高齢者や障害者にとって暮らしにくい」「楽しめる場所（娯楽）が少ない」などが挙げられています。
- 行きやすくしてほしい施設として、「医療施設」や「身近な商業施設」「ショッピングセンターなどの商業施設」とする回答が上位となっています。

【日常生活における目的ごとの主な行き先】

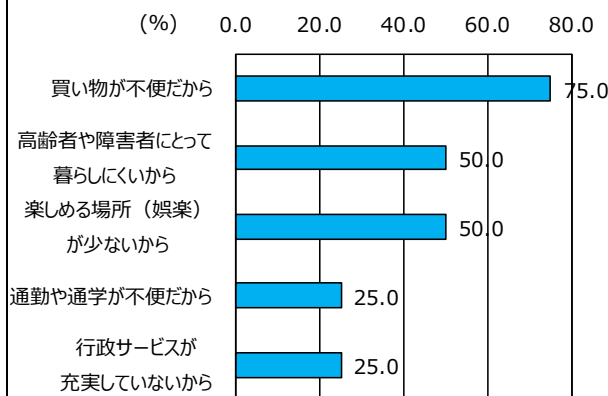


※赤枠表示は市全体の行き先を「市内」と回答した比率

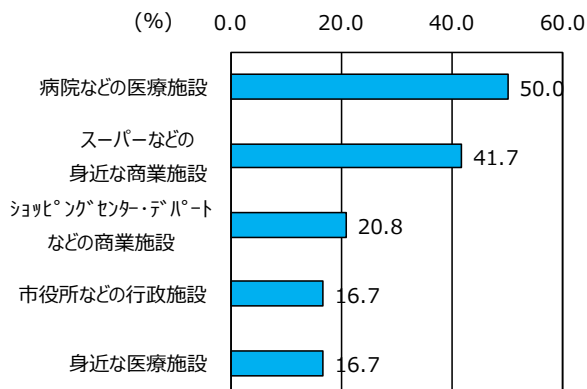
【住みやすさ】



【住みにくい理由】



【特に行きやすくしてほしい施設】



☆住民懇談会でこんな声が寄せられました・・・

<定住や生活環境に関すること>

- ・仕事がない、給料が安い、家賃が高いことなどを要因に若者が転出していると思う。人口減少に対応するための定住・転入促進策が必要では。
- ・農地の集約化を進めてはどうか。
- ・寄居町と比較して、秩父市は地価が高いため、土地などの流動化が進まないのではないかと思う。

<観光や景観に関すること>

- ・秩父には、心の充足を求めて訪れる人が多いと思う。

<安全・安心に関すること>

- ・農作物の鳥獣被害がひどいため、対策が必要と思う。

④ライフステージに対応した施設

<あらゆる世代が利用する施設（共通）>

- 別所・久那地域は、荒川を挟んだ中心市街地の対岸に位置する条件にあることから、食料品スーパーなどの商業機能や病院、金融機関などの機能立地は限定的です。
- 診療所は1箇所が立地していますが、秩父第一病院や秩父病院などの病院は、地域を越えた影森地区への移動が必要となっています。

【商業施設等】

別所・久那地域においては、食料品等の日用品を購入するためのスーパーなどがなく、荒川対岸の影森地区や中心市街地まで出かけなければならないため、自家用車などの交通手段を持たない住民は利用しづらい状況にあります。将来人口が1,100人程度であることを踏まえると、本地域への立地誘導は困難であり、他地域の商業施設を利用しやすい環境を構築する必要があります。

【医療施設】

地域医療を支える診療所は、別所地区に皮膚科を診療科目とする医院と歯科医院が1箇所ずつとなっています。また、別所地区については秩父第一病院、久那地区については秩父病院が最寄りの病院となり、ミューズパーク線・久那線、秩父病院の無料送迎バスが利用されています。

【金融機関】

金融機関は、郵便局がその役割を担っています。事業者に対し広く融資を含む事業支援は、中心市街地に立地する金融機関を利用する必要があります。

【あらゆる世代が利用する施設（共通）】

ライフ ステージ	対象 エリア	種別	具体例	交通手段	地域の課題 (代替え案)
共通	圏域	行政	国や県の機関・本庁		
	地域	行政	久那出張所		
	地域	医療	はらしまクリニック	徒歩 自家用車	
	圏域	医療	秩父第一病院・秩父病院	自家用車 バス	交通手段の充実
	地域	買い物	ベルク秩父影森店 セブンイレブン秩父巴川橋店他	自家用車	交通手段の確保
	地域	銀行 郵便局	影森郵便局	自家用車	交通手段の確保

<幼年期から学齢期に関わる施設>

- 幼稚園、小学校が各1箇所立地していますが、徒歩での通園・通学が可能な範囲は限られています。中学校は設置がなく、影森地区への通学が必要です。
- 高等学校、大学は設置されていないため地域外・圏外への通学が必要です。

【保育所・認定こども園等】

民間施設の状況も踏まえながら、子育て環境の維持・向上に向けてサービス水準の維持に取り組むことが望まれます。

【小学校・中学校】

地域内には小学校1校が設置されていますが、中学校は、隣接する影森・浦山地域の影森中学校の学区となっており、地域西側の坂本などは、必ずしも通学しやすい環境とはいえません。

これら学校教育施設は、地域コミュニティの核となる施設でもあることから、施設の維持と通学路の安全性の確保が求められます。

【高校・大学等】

高等学校は、地域の高等学校の魅力向上とともに、秩父圏域内外の高校へも通学しやすいよう、公共交通による移動の利便維持・向上が望まれます。

大学などでは、圏外へ容易に通学できるよう、公共交通による移動の利便維持・向上が望まれます。

【幼年期から学齢期に関わる施設】

ライフ ステージ	対象 エリア	種別	具体例	交通手段	地域の課題 (代替案)
幼年期	地域	保育所 こども園等	久那幼稚園	徒歩 自家用車	
学齢期	地域	小学校 中学校	久那小学校 影森中学校	徒歩	通学手段の維持 通学路の安全性確保
高校	圏域 広域	高校	秩父圏域の高校 熊谷・飯能方面	バス・電車	交通手段の確保
大学 専門	広域	大学 専門	県内・都内	バス・電車	交通手段の確保

※赤字は何らかの対策が特に必要な施設

＜就労壮年期から老年期に関わる施設＞

- 就労場所は、市内、秩父圏域をはじめ、熊谷・飯能方面や都内となっています。
- デイサービスセンターは、送迎車などで比較的にしやすい環境にあります。
- 在宅介護に関わるサービス支援は、移動距離がやや長くなるため、必ずしも効率的とはいえない環境にあります。

【就労場所】

幹線道路の整備等による道路ネットワークの向上、公共交通による移動の利便維持・向上が望まれます。

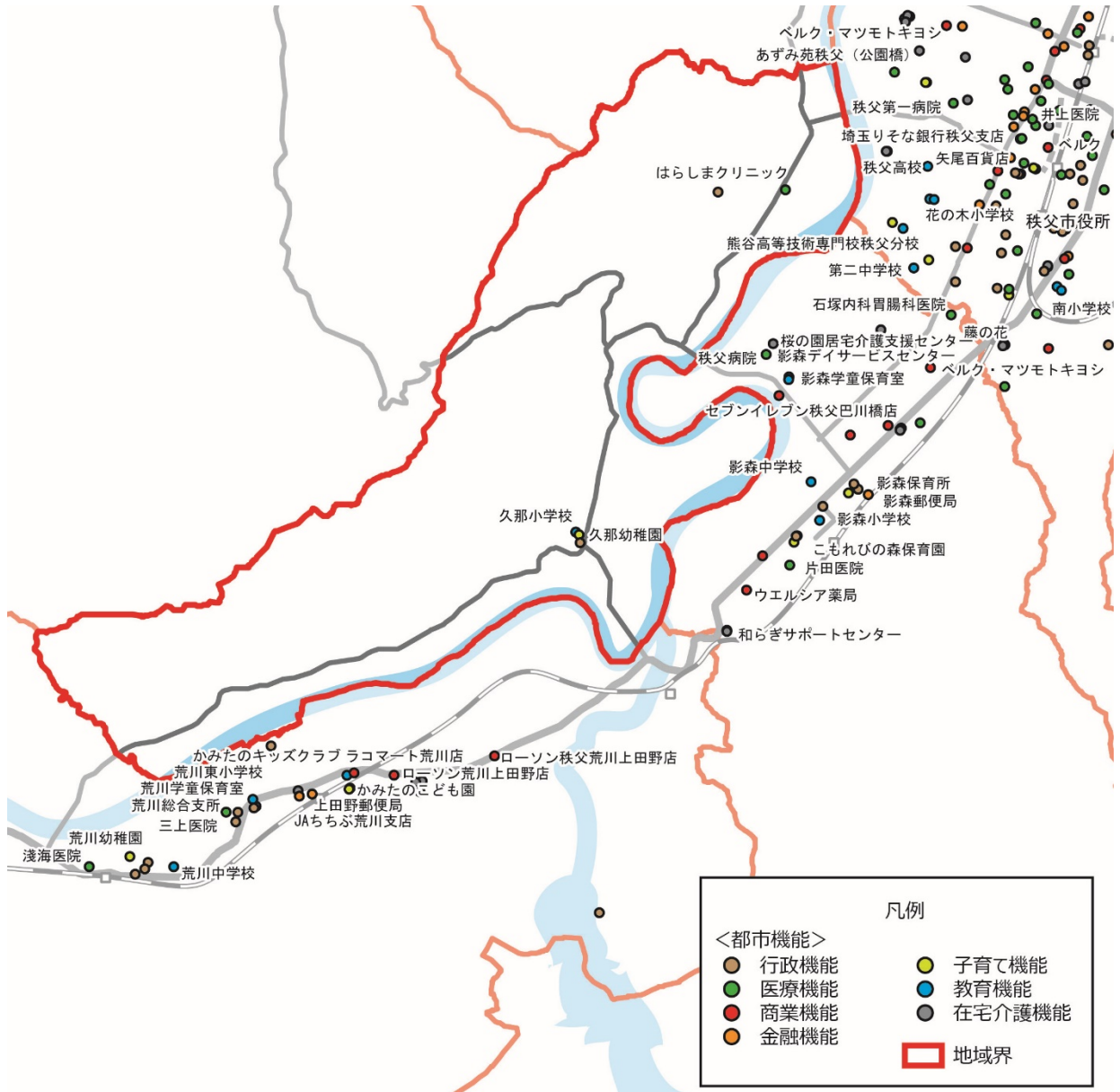
【在宅介護】

福祉・介護計画に基づき、地域の福祉サービスを維持・向上していくことが望まれます。

【老年期に関わる施設】

ライフ ステージ	対象 エリア	種別	具体例	交通手段	地域の課題 (代替案)
就労 壮年期	地域 広域	雇用	市内、秩父圏域 熊谷・飯能方面、都内	自家用車 バス・電車	都内への電車交通 幹線道路等の整備
老年期	地域	在宅 介護	影森デイサービスセンター 他	送迎	

【都市機能の配置状況】

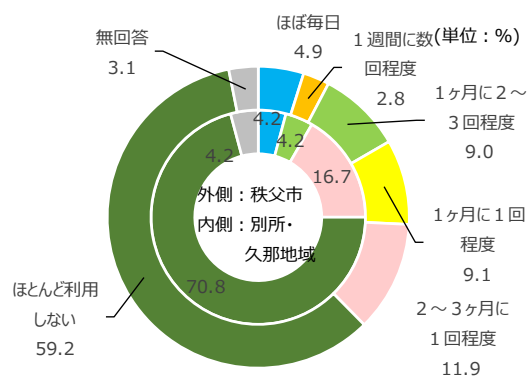


資料：都市計画課

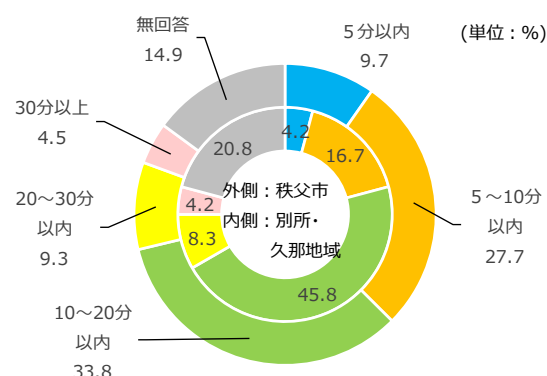
⑤道路、公共交通特性

- 本地域は(主)秩父荒川線を軸に、(一)小鹿野影森停車場線(巴川橋)、市道幹線51号(佐久良橋)、市道幹線12号(久那橋)などによって中心市街地や影森地区と結ばれており、上久那地区からは日野鷲橋により荒川日野地区で国道140号につながっています。また、中久那地区からは柳大橋により影森地区と結ばれています。
- 路線バスは別所付近がミュージックパーク線、久那出張所周辺は久那線により、それぞれ西武秩父駅・秩父駅や秩父病院・秩父市立病院と結ばれていますが、運行頻度は4往復/日にとどまっています。また、上久那地区では乗合タクシーは利用できるものの、路線バスがありません。
- 市民アンケートでは、公共交通の乗り場への所要時間は、10分以内が約2割にとどまっています。こうしたことも要因に、公共交通を「ほとんど利用しない」が7割に達しており、公共交通があまり利用されていない現状がうかがえます。

【公共交通の利用頻度（市民アンケート調査）】



【公共交通への所要時間（市民アンケート調査）】



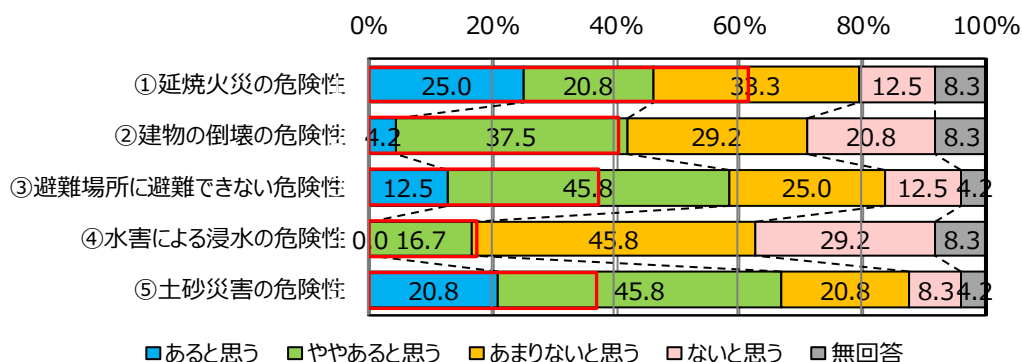
⑥景観、観光、文化特性

- 景観については、東側に荒川の水辺景観、西側に長尾根丘陵の森林景観が展開し、限られた平地部に農地と集落が広がる景観が形成されています。
- 観光については、秩父ミュージックパーク、ちちぶキッズパークなどの公園のほか、秩父の地酒醸造工場や酒蔵資料館などがあり、市内外から多くの来訪者が訪れています。
- 文化については、秩父札所24番法泉寺と25番久昌寺をはじめ、各地区には神社や寺が分布し、久那諏訪神社のジャランポン祭りなどユニークな祭りや久那葛城神社の獅子舞が引き継がれています。

⑦防災、地域安全特性

- 土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域が(主)秩父荒川線及び(一)小鹿野影森停車場線沿道などを中心に、地域の広範に分布しており、指定避難場所に指定されている久那小学校も含まれています。
- 公民館や小学校がある久那地区の中心部については、弁天池(ため池)が決壊した場合の浸水想定区域が広がっています。
- 地震については、埼玉県が想定する5つの被害想定のうち、関東平野北西縁断層帯地震(30年以内にほぼ0~0.1%)によって、ほぼ全域で震度5弱の揺れが想定されています。
- 水害については、荒川に面した上久那・久那橋下・柳大橋下・別所総合運動公園などで浸水リスクがあるほか、沿岸域は家屋などの倒壊や流出をもたらすような河岸浸食の発生が想定される家屋倒壊等氾濫想定区域となっています。また、弁天池(ため池)が決壊した場合、地区の拠点である久那出張所周辺で広く浸水が発生すると想定されています。
- 長尾根丘陵の山間部に老朽空き家が点在しており、倒壊や火災への注意が必要です。
- 大規模火災については、地域の住宅密度が低く、大規模延焼の可能性は少ないと考えられます。
- 市民アンケートでは、地域における災害リスクについて「避難できない危険性」「土砂災害の危険性」とする割合が、市全体と比較して高い傾向にあります。

【地域における災害リスク（市民アンケート調査）】



※赤枠表示は市全体の「あると思う」「ややあると思う」と回答した比率の合計

(3) 地域の将来像

地域の現状と将来動向、市民の意向とまちづくりの課題を踏まえ、別所・久那地域の将来像を設定します。

○利便性の高い魅力的な暮らしの場

隣接する中心市街地への道路・公共交通によるアクセス性を高め、これらに立地する行政サービス機能や商業機能、医療機能などの利便性を向上させることにより、魅力ある暮らしの場を形成します。

○災害に強いまち

災害の予防や被害を最小限に抑えるための取り組みにより、土砂災害や想定される水害に対し、より安全なまちを地域住民との協働により形成していきます。

○多様な地域の資源を活かした交流の拠点

豊かな自然を活かしたミューズパークや秩父札所、地酒の醸造工場や酒蔵資料館など、地域の歴史や風土に根ざした地域資源を活用し、まちに活気とにぎわいを創出する交流拠点を形成します。

(4) 地域まちづくりの基本方針

「地域の将来像」を踏まえ、別所・久那地域におけるまちづくりの基本方針を設定します。

【地域まちづくりの基本方針図】



① 不足する機能の改善策

地域に不足するもののうち、特に対策が必要な機能については、次の方針のもとで改善に取り組みます。

対象機能・施設	改善の方針
商業施設	<ul style="list-style-type: none"> ・影森地区や中心市街地へのアクセス改善 ・移動販売に対する支援
病院	<ul style="list-style-type: none"> ・秩父病院、市立病院へのアクセスの向上
高校・大学等	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道の利便性の向上 ・鉄道駅へのアクセス改善

②豊かさを実現する土地利用

『豊かさ』を実現するコンパクトでにぎやかな活力のあるまちづくりに向け、次の方針のもとで土地利用を誘導します。

- ・ 空き地を活用した土地利用の集約化や自然的土地利用への回帰
- ・ 丘陵沿いに形成された良好な集落地景観の形成と無秩序な開発の抑制
- ・ 農地の保全と周辺の豊かな自然環境に配慮した農業の展開
- ・ 地域コミュニティの維持に向けた集落環境の形成
- ・ 安心・安全でコンパクトな暮らしやすい地域の拠点の形成
- ・ 秩父ミュージズパークを中心とした交流拠点の形成

(5) 対流まちづくりの基本方針

人口減少が予測される中、大都市との交流拡大によって需要を取り込み、まちとしての機能を維持するため、観光振興によるまちづくりに取り組みます。

①秩父ミュージズパーク等を中心とする交流拠点形成

秩父ミュージズパークは、本市と小鹿野町にまたがる豊かな自然環境に恵まれた長尾根丘陵にある大規模公園です。音楽堂・野外ステージなどの文化施設、テニスコートなどのスポーツ施設、アウトドア体験施設や宿泊施設などがあり、四季を通して自然にふれあいながら余暇を楽しむことができる施設となっています。

また、ちちぶキッズパークは、小さな子どもが安全に安心して遊べる施設として、市民はもとより埼玉県内外から多くの方が利用するなど秩父エリアの観光のひとつになっています。これら秩父の自然を感じることができるレクリエーション施設を活用し、相互連携を図るとともに、秩父ミュージズパークは、開園してから数十年経過しているため、施設の老朽化を見据えた内容の見直しや整備・更新、維持管理により、都市との交流（対流）を促進する交流拠点の形成に取り組みます。

②地域の歴史や文化の活用

秩父札所24番法泉寺や25番札所久昌寺の周辺、巡礼コース沿道の景観づくりなどにより札所巡りの魅力の向上を図るとともに、古くからの歴史を有する地酒の醸造工場や酒蔵資料館など、地域の歴史や風土に根ざした文化的な地域資源を活用し、都市との交流（対流）を促進する交流まちづくりに取り組みます。

【対流まちづくりの基本方針図】



（6）防災まちづくりの基本方針

市民の安全を守りつつ、同時に、コンパクトでにぎやかな活力のあるまちづくりを実現するため、防災の視点からのまちづくりに取り組みます。

①地域における避難所・避難路の整備

各地区においては、定住人口や交流人口の規模に照らし、収容可能な避難施設を適切に配置します。特に、避難所となっている久那小学校は、土砂災害警戒区域に指定されており、擁壁等の防災施設の適切な維持管理とともに、荒川の浸水想定区域にも含まれていることから、安全な避難経路の確保などに重点的に取り組みます。

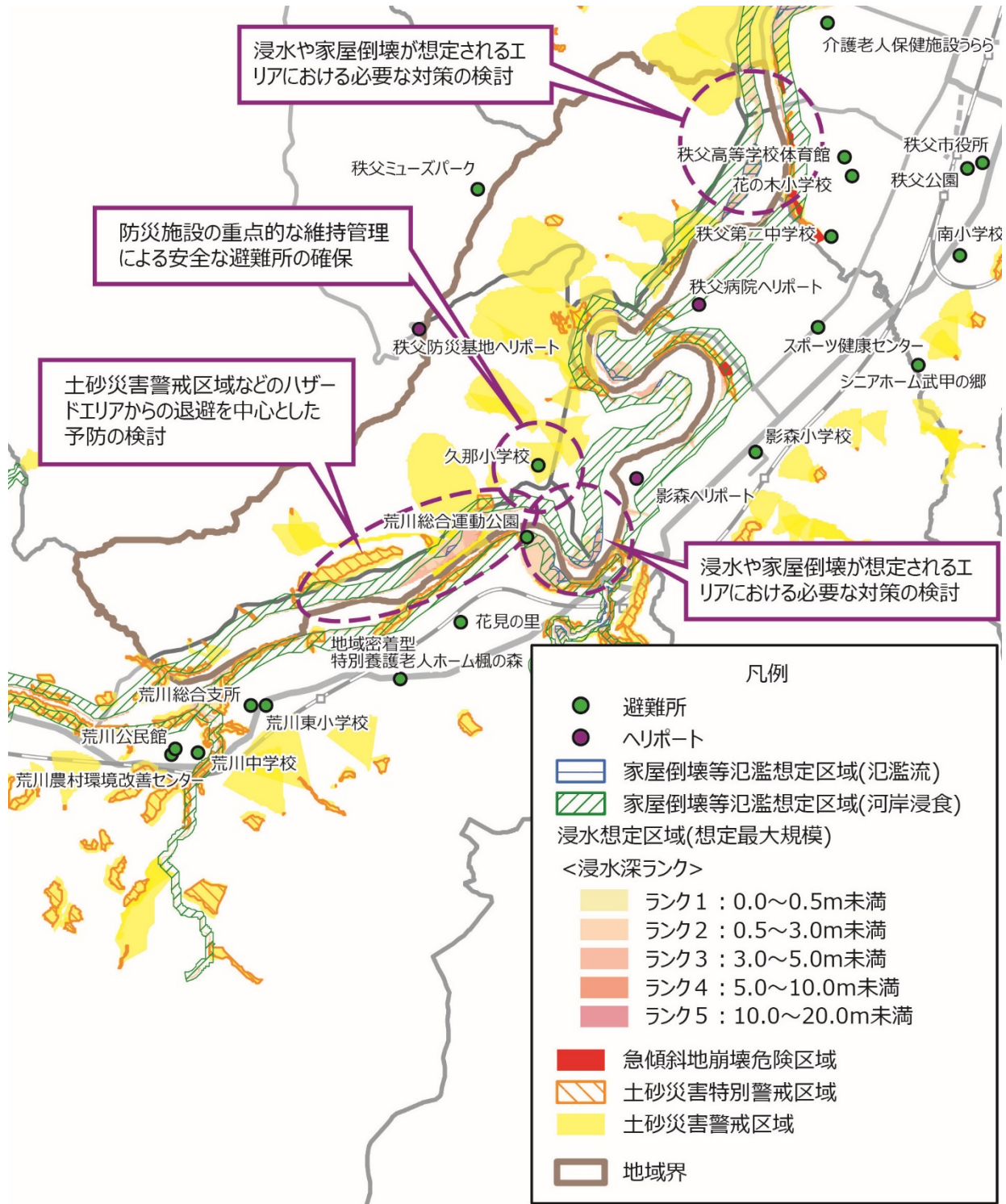
②集落地や山間地の土砂災害警戒区域、浸水想定区域に対する対応

(主)秩父荒川線及び(一)小鹿野影森停車場線沿道の土砂災害警戒区域や浸水想定区域においては、集落地における避難場所の整備や新たな建築物の立地の抑制、将来的な区域外への居住誘導など、災害予防と減災に向けた取り組みを検討します。

③荒川沿岸の家屋倒壊等氾濫想定区域に対する対応

計画規模において浸水リスクのある上久那の荒川沿岸の農地や、家屋倒壊等氾濫想定区域においては、リスク情報の周知を通じた、新たな建築物の立地の抑制、将来的な区域外への居住誘導など、災害予防と減災に向けた取り組みを検討します。

【防災まちづくりの基本方針図】



(7) 将来像実現に向けた取組方針

「地域の将来像」及び「地域まちづくり」「対流まちづくり」「防災まちづくり」それぞれの基本方針を踏まえ、将来都市像を実現するための「取組方針」及び「主な取組」を、4つの基本目標を軸に示します。

1) 基本目標1の実現に向けた取組方針

(「みんなが「総活躍」し、豊かさを感じられる日本一しあわせなまち」に向けて)

①安心・安全でコンパクトな暮らしやすい拠点の形成

<久那出張所周辺>

- 別所・久那地域の生活圏を支えるため、出張所の行政サービス機能の維持を図ります。
- 地域で確保することのできない、医療施設、高等教育については、道路交通・公共交通ネットワークの利便性を高めることにより、市外を含めた各機能へのアクセス性を高めます。

②新たな居住環境の提供による地域コミュニティの維持

<(主)秩父荒川線・(一)小鹿野影森停車場線沿道など>

- (主)秩父荒川線の改良にともなう宅地化や開発等について適切な土地利用の誘導を図ります。
- 周辺の豊かな自然環境に配慮した農業を振興するとともに無秩序な開発の抑制など、丘陵沿いに形成された良好な集落景観を保全しながら、良好な生活コミュニティを創出する場を形成します。
- 持続可能な地域づくりのため、下久那など災害の危険性が低いところを中心に、将来にわたり暮らし続けることのできる環境形成に取り組むことで、地域コミュニティの維持を図ります。
- 定住・移住の促進に向けて、空き家・空き地の有効活用を図りつつ、持続性ある地域形成に取り組みます。

2) 基本目標2の実現に向けた取組方針

(「さまざまな移動・物流手段に支えられた、ヒト・モノ・カネ+情報が交流する活力あるまち」に向けて)

①ヒト・モノ・カネ+情報が対流する連携軸の整備

<(主)秩父荒川線>

- 荒川左岸の主要道路として地域の骨格を形成する、荒川・大滝方面や中心市街地へのアクセス道路であるとともに、生活道路や通学路としても利用されていることから、必要な改良と適切な維持管理を関係機関との連携のもとで取り組みます。

<(一)小鹿野影森停車場線・市道幹線12号・市道幹線51号・市道幹線74号>

- 中心拠点にアクセスする道路として、必要な改良と適切な維持管理を関係機関との連携のもとで取り組みます。

②ヒト・モノの対流を支える公共交通の確保

<路線バス：ミュージックパーク線・久那線>

- 利用促進に向けた啓発活動や秩父ミュージックパークをはじめ沿線における観光機能を強化し、利用者の拡大を促すことで、利便の確保を図ります。

3) 基本目標3の実現に向けた取組方針

(「多くの人々が訪れ、美しい自然環境と文化を堪能できるまち」に向けて)

①多くの人々が訪れ楽しめる交流拠点の形成

<秩父ミュージックパーク>

- 西関東連絡道路の延伸によるアクセス改善や広域的視点に立った利用者ニーズを踏まえ、関係機関と連携して計画区域や機能の見直しに取り組みます。
- 指定管理者制度やPark-PFIも含めた民間活力の活用により、交流の場、レクリエーションの場、スポーツやイベント会場などとしての機能の充実と適正な維持管理に取り組みます。
- ミュージックパーク周辺環境の整備に取り組み、長尾根丘陵の自然豊かな集落の形成と周辺宿泊施設による交流拠点を形成します。

②歴史文化・自然資源を活かした交流機能の充実

<秩父札所巡り>

- 各札所周辺や巡礼コース沿道においては、地域住民の意向を踏まえつつ、景観形成重点地区を指定するなど、良好な景観形成を検討します。

<その他の観光施設>

- 酒づくりの森などの地域資源のネットワーク化などにより、地域内の周遊性や滞留性を高める取り組みを進めます。
- ちちぶキッズパークの充実を図ることで、子ども連れ家族の秩父圏域への来訪を図ります。

<荒川>

- 別所運動公園周辺や柳大橋周辺など自然環境と調和した河原で行われる各種レクリエーションに対応した空間づくりを進めます。

4) 基本目標4の実現に向けた取組方針

(「誰もが「安心・安全」に暮らせるまち」に向けて～)

①誰もが安心・安全に暮らせる環境の確保

<森林>

- 国土保全をはじめ森林の有する機能に応じた森林施業の促進による適切な維持管理に取り組みます。

<土砂災害警戒区域・浸水想定区域・家屋倒壊等氾濫想定区域等>

- 災害リスクの軽減を図るため、久那小学校、久那出張所周辺から、優先的に土砂災害防止施設等の整備を検討します。
- 浸水想定区域については、防災意識の向上とともに、氾濫情報の早期伝達と早期避難に向けた体制を構築します。
- 土砂災害警戒区域や家屋倒壊等氾濫想定区域などにおいては、災害リスクを周知し、事前の準備や早期の避難等と呼びかけるとともに、被害を軽減する施設の設置を関係機関と連携して進めます。また、新たな建築物の立地の抑制や将来的な区域外への居住誘導などの取り組みを検討します。

<ため池浸水想定区域>

- 弁天池(ため池)については、緊急時の迅速な避難行動につなげる対策や、施設の適切な維持、補強に向けた対策を管理者と連携・協力しながら進めます。